

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

- ・東北大学に研究科の枠を超えた幅広い視野を持った研究者を育成する目的で開設された国際高等研究教育院に農学研究科からも平成19年度から3科目、6単位の講義を提供する予定にしている。
- ・「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「食・農アセス実践科学者育成プログラム」を申請し、ヒアリングまで進んだが、残念ながら採択にはいたらなかった。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

[研究]

- ① 麹菌の全ゲノム解析プロジェクト研究に、本研究科の五味勝也教授と阿部敬悦助教授が主導的に参画し、その研究成果がNatureに2報としてまとめられ、掲載された(Nature 438, 1151-1156, 1157-1161, 2005)
- ② 寄附講座「テラヘルツ生物工学」が「テラヘルツ光」を食・生物産業やライフサイエンスへの活用を目指して研究を推進し、「ラベルフリータンパク質分析法の開発」、「テラヘルツ光を使った食品分析」、「導波路を使った生体反応分析技術の開発」で、高い研究成果をあげ、寄附講座としてさらに3年間継続された。

[教育]

- ① 幅広い視野を持つ大学院生の教育を充実するために、大学院のカリキュラムのあり方を再検討し、大講座単位を中心とした合同講義、6科目を開講した。
- ② 大学院生の国内・国際会議での講演、国内・国際雑誌への論文発表等をさらに促進するため、18年度後期から前期2年生と後期1年生を対象としたnative speakerによる講義「実践科学英語(2単位)」を開講する。また、学部学生の英語教育の実質化の一環として、次年度から「科学英語特別講義(1単位)」2クラスの開講を準備している。

[社会貢献]

- ① 「東北大学大学院農学研究科と宮城県の連携と協力に関する協定書」を締結した。
- ② 上記協定に基づく連携研究事業シンポジウム「コンポスト総合科学の創設と有機性資源循環システムの構築」を平成18年2月に実施、共同研究を継続中である。
- ③ 毎年1～2回、市民向けの農学カルチャー講座を実施した。
- ④ 東北大学100周年記念東北大酒「萩丸」の開発と東北大学生協を通じて本学関係者へ広く販売した。

〔根拠資料〕

- ① 「東北大学大学院農学研究科と宮城県の連携に関する協定書」及び新聞記事
- ② シンポジウムパンフレット
- ③ カルチャー講座開催資料
- ④ 「萩丸」紹介パンフレット及び新聞記事

〔その他〕

ベンチャー企業「(株) プロジェクト・M」を宮澤教授らが立ち上げた。